

大東文化歴史資料館だより

第27号 2019. 11. 30

大東アーカイブス第26回企画展

大東スポーツの時代 — 「若い力」と「挑戦」 —

展示期間：令和元年11月2日(土)～令和2年3月31日(火)

(開室時間 毎週月～金曜日 9:00～17:00)

展示場所：大東文化歴史資料館 展示室(板橋校舎2号館1階)

第26回企画展「大東スポーツの時代 — 「若い力」と「挑戦」 —」を開催いたします。本学は、「スポーツの大東」として大正期の創設時より文武両道を旨としてきましたが、1966(昭和41)年4月より「体育部」及び「大東文化大学学生自治会体育連合会」の設立を果たしてからは、いっそうスポーツに力を注ぐようになりました。

大東スポーツ躍進のカギとなったのは、1967(昭和42)年、東松山校舎の開設でした。その広大な敷地は、選手たちに必要な施設設備を十分に提供することを可能としました。大きなグラウンドも体育館も最新、さらに都会から程よく離れた自然豊かな環境は選手たちの足腰だけでなく精神面をも鍛えてくれ、トレーニングを行なう場所として適していました。こうして、1970年代に入る頃には、大東生たちは国内外の大会で次々と結果を出すようになったのです。

今回の企画展では、スポーツに関する、近年受贈した貴重な資料を中心に公開いたします。1970年代の貴重な映像群が東松山図書館から学内移管されたことを皮切りとして、同時期に運動部が発行していた複数の刊行物や、体育センター保管の大量のアルバムも移管されました。これらによって、学園による様々な歴史的取り組みや草創期運動部と学生たちの活気あふれる様子が一層明らかになってきました。

今後も、映像・画像データを含めて関連資料を積極的に収集保存し、多くの大東生たちの活躍の記録を後世へ残していきたいと考えています。引き続き、多くの方々から情報をいただくことが出来れば幸いです。

◆本学関係者 オリンピック出場記録

来年2020年には東京オリンピックが開催されます。「大学」は、これまでも多くの学生選手をオリンピックへ送り出してきました。日本が初めて近代オリンピックへ参加したのは1912(明治45)年のこと。初出場となった選手二人はいずれも、東京帝大と東京高等師範学校に所属する学生でした。本学関係者の五輪初出場は、1972年「札幌冬季五輪」の女子スキー競技でした。同年夏「ミュンヘン五輪」では男子レスリング競技に現役学生が出場しました。さらに陸上競技部の強化もあって、男子長距離競技における五輪出

場も見られ、近年では2012年ロンドン五輪におけるテコンドー競技での出場も見られました。

【陸上競技】

- ・米重修一(1984卒)：ソウル五輪(1988)男子5000m/10000m代表
- ・実井謙二郎(1991卒)：アトランタ五輪(1996)男子マラソン代表
- ・土井杏南(2014入学)：ロンドン五輪(2012)女子4×100mリレー代表
- ・佐々木悟(2008卒)：リオ五輪(2016)男子マラソン代表

【レスリング】

- ・佐藤貞雄(1976卒)：ミュンヘン五輪(1972)レ

- スリング男子グレコローマン82kg級代表
 モントリオール五輪（1976）レスリング男子グレ
 コローマン90kg級代表
- ・清水一夫（1977卒）：モントリオール五輪（1976）
 レスリング男子フリー100kg級6位
 - ・鈴木賢一（1992卒）：バルセロナ五輪（1992）レ
 スリング男子グレコローマン130kg級代表
 アトランタ五輪（1996）レスリング男子グレコロ
 マン130kg級8位
 - ・加藤賢三（2002卒）：北京五輪（2008）レスリン
 グ男子グレコローマン96kg級代表

[テコンドー]

- ・笠原梨香（2013卒）：ロンドン五輪（2012）テ
 コンドー女子49キログ級7位

[冬季競技]

- ・沖津はる江（1972卒）：札幌冬季五輪（1972）ア
 ルペン女子回転16位・滑降40位・大回転22位・複
 合12位
- ・高橋弘子（1971卒）：札幌冬季五輪（1972）クロ
 スカントリー女子5Km34位・女子10Km25位
- ・佐藤真太郎（教職員）：ソチ冬季五輪（2014）ボブ
 スレー男子4人乗り代表



◆展示資料から 『銘版』（2013年9月作製）

2019（令和元）年9月に伊藤和義氏（同窓生）より受贈しました。伊藤氏は、陸上競技部創設（1966年）メンバー4人のうちの一人。「4人組」によって、その後の輝かしい本学長距離走の歴史を築いていくこととなりました。創部直後から部員数を増やしていき、翌年には1年生選手だけで「箱根駅伝」予選会に出場、総合4位で本大会出場を勝ち取りました。展示している『銘版』には、その時の記録と、出場時に陸上部に所属したメンバー21人の名前が刻まれています。

（歴史資料館運営委員 浅沼薫奈）

ギャラリートーク

本年11月2日（土）、第97回大東祭の開催期間中に、特別企画として展示室（板橋校舎2号館1階）を開室（10～15時）し、企画展示などを踏まえながら、「創立百周年」を目指している本学の歩みなどについて、歴史資料館の関係スタッフが来室者に対してギャラリートークを行いました。本年度の見学者数は延べ30名ほどで、本学同窓生をはじめ、在学生のご親族などが主でした。第26回企画展「大東スポーツの時代―「若い力」と「挑戦」―」を見学者の皆さんにはご覧いただき、創設時より「文武両道」をモットーとした本学が、とくに1960年代後半、昭和40年代以降に、東松山校舎を開設したことを契機として、広大な敷地に近代的なグラウンドや体育館等の関係施設を整備し得て、大東体育部及び学生自治会体育連合会も設立されて、よりいっそう大東生らのスポーツ活動を充実させて来ました。

見学者のかたがたのなかでもこのたび印象深かったのは、本学チアリーダー部の出身である同窓生がご自身の娘さんと一緒に来室され、在学中に大東スポーツ全体が今以上に活況を呈していた時代のお話をしみじみされていたこと、さらに小学校低学年の女子児童が来室され、自分が青桐幼稚園の出身で、幼稚園時代にはお友だちと過ごした嬉しい思い出がいっぱいあることをはきはきしながらお話されていたことなどが挙げられます。また同日来室された門脇廣文学長が、本学同窓生らと交え東松山校舎の模型を前にして、1983年にご自身が本学教員として着任した折り、1年間ほど東松山校舎内の教職員宿舎に滞在していた体験談も披露され、東松山校舎のあるある話で見学者も大いに盛り上がりました。



なお大学百年史編纂サイト「継往開来」でももっか公開している、東松山図書館から歴史資料館に移管された体育会関連の16mmカラーフィルム3巻、「挑戦」（1973年制作）、「青春の架け橋」（1976年制作）、「若い力」（1977年制作）は、展示室内にあるモバイルPCを介して自由に視聴できて、当時の金子昇理事長の号令指揮のもと、駅伝やレスリングをはじめ、多くの体育会所属の運動部の活躍の様子が映し出され、見学者らにはとても好評でした。

（歴史資料館運営委員・東洋研究所特任准教授 谷本宗生）

* 資料紹介 *

「木下成太郎関係資料」

2019年10月、「木下成太郎関係資料（文書）」を受贈いたしました。寄贈者は本学百年史研究に寄与することになればとのご厚意から、寄贈をお申し込み下さいました。

木下成太郎は北海道出身の地方政治家（代議士）で、本学の実質的創設者の一人でした。大東文化学院設立にあたって帝国議会への働きかけを積極的に推進しつつ、自ら立って趣旨説明を行っており、まさに「立役者」となった人物でした。後に大東文化協会副会頭をつとめ、創設以降は常に運営の中心にいたことから、死去した際には本学史上唯一の「大東文化学院葬」が行なわれました。したがって、旧制期の大東文化学院史を紐解くための非常に重要な人物であると考えられています。

さて、今回受領した資料群は、約200点にのぼります。大部分は木下成太郎に宛てられた書簡となっており、数通の実弟夫妻に宛てた書簡や、一部に明治期に記されたと思われる書類を含んでいます。

成太郎宛書簡は、昭和初期から昭和17年に死去するまでの時期を主としており、そのうち特に大東文化学院関係者からの学園の近況を知らせる内容や改革方針を打診する内容の書簡は、本学の歴史を解き明かす極めて貴重な資料となり得ます。書簡の送り主には小川平吉、山本悌二郎、土屋久泰、成田千里等々といった錚々たる大東関係者の名前が散見され、その内容からは教授陣容や事務組織変更などに関して、数々の相談や報告が成太郎に寄せられていたことがわかります。

本学にとって昭和10年代は、「三部制」への移行、九段校舎から池袋校舎への移転といった変化が見られた画期であり、本学の「第一次変革期」とも言うべき重要な時期に当たります。しかし、その後の戦火でほとんどの資料が焼失してしまったため、当時の様子をうかがい知ることがなかなか出来ない状況でした。受贈した成太郎関係資料は、そこを補填しうるものとして期待されます。そのほか、大東文化学院卒業予定者名簿や進路一覧といった貴重な資料も含まれていました。

なお、大東文化学院教授であった北吟吉からの依頼によって、成太郎は帝国美術学校（現在の武蔵野美術大学）創設資金の調達に携わっており、その関係から初代校主も務めました。その後に生じた帝国美術学校の学校紛擾の状況について、校地関係や学生たちの同盟休校を報告する書簡、その他学校経営に関する念書類も今回受贈した資料中に多く含まれており、広く旧制高等教育機関全体にとっても重要な資料となると考えられます。

今後、受贈した資料群の分析を進め、今後の報告や公開を目指していく予定です。

（歴史資料館運営委員 浅沼薫奈）



< 資料寄贈ご協力のお願い >

大東アーカイブスでは、引き続き本学関係資料のご寄贈をお願いしています。学園沿革史に関わる資料がございましたら大東文化大学総務課（大東文化歴史資料館担当）までご連絡いただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

* 大東アーカイブスの動き *

2019（令和元）年7月25日（木）、大東文化会館にて第三回大東文化大学史研究会を開催いたしました。

研究発表は、谷本宗生氏（歴史資料館専任研究員・東洋研究所特任准教授）「合同教授会資料（1963.4～1986.3）からみる本学の歩み」、宮瀧交二氏（文学部歴史文化学科教授）「大東文化大学板橋・東松山両キャンパス所在地の地域性について」、石井寿美世氏（経済学部社会経済学科准教授）「大木遠吉の思想に関する一考察」の順で行われました。



大東史に関わる研究調査の最前線が報告され、広い視野に立ち様々な観点から有意義な議論が交わされました。引き続き研究会の開催によって調査状況の進捗をご報告していく予定です。

百年史編纂事業の進捗状況について

百年史編纂委員会委員長
経済学部現代経済学科教授 中村宗悦

2019（令和元）年9月20日、本学は創立九十六周年を迎えました。現在、百年史編纂委員会ではワーキンググループを中心に、まずは2023年度中の『大東文化大学百年史資料編（仮）』刊行に向けてその構成・内容を検討しています。検討過程でさまざまな意見が出され、議論は毎回盛り上がりを見せていますが、まだまだ整理していかなければならない膨大な資料があり、その取捨選択に頭を悩ませているところです。その一方で残されている資料が極端に少ない戦中期などの時期もあり、継続して資料提供にご協力をお願いしたく存じます。

最近では本学創立に深く関わった木下成太郎宛書簡類を中心とした新資料200点余りを一般の方からご提供いただきました。この『資料館だより』でも簡単にご紹介させていただいていますが、ここに記して謝意を表したいと思います。

また本学ブランディング事業の自校史アーカイブスプロジェクトも本格的に動き始め、本資料館所蔵の貴重資料の写真撮影、デジタル化を進めています。デジタル化されることで比較的早い時期にそれら資料の公開・活用が『大東文化大学百年史資料編（仮）』刊行に先行して可能になるかもしれません。もちろん『資料編』刊行前であっても興味深い発見などがあれば、大学サイト内の百年史特設ページ（「継往開

来」<http://www.daito.ac.jp/100th/>）に公開して参ります。こうしたデジタル化の動きは、日進月歩どころか分進秒歩の世界です。資料館の機能やその役割全体の変化も視野に入れながら、最終的には百年史本編の活字ベースでの刊行をきちんと実現し、加えて様々な資料の実物を親しくご覧いただけるような歴史資料館にしていきたいと考えています。

さて、一昨年から実施している「大東文化大学史研究会」ですが、すでに「継往開来」中でもお知らせしました通り、今年は7月25日に第3回目の研究会を実施いたしました。今回は前2回と比べて1本多い、3本の報告があり、盛況のうちに無事終了いたしました。そして、何よりも嬉しいのは現在刊行準備中の『大東文化大学史研究紀要』第4号へ多くの投稿があったことです。発刊は2020年の3月頃を予定していますが、研究会と紀要の良い循環が生まれつつあるように思われます。研究会は年1～2回、紀要は年1回の発行を予定しておりますので、大学史に関するご研究の発表や関連するご報告などございましたら是非奮ってご参加くださいますようお願い申し上げます。詳細につきましては、大東文化大学総務課（大東文化歴史資料館 担当）までお知らせくだされば幸いです。

【大東アーカイブス活動記録】（2019年4月～2019年9月）

- | | | | |
|------|---|------|---|
| 4.9 | NHKより資料照会対応 | 6.11 | WG会議
百年史編纂委員会会議（通算14回）
第一回運営委員会会議 |
| 4.10 | 東松山図書館より資料寄贈につき打ち合わせ | 6.21 | 吉田篤志氏（中文科准教授）より資料受贈 |
| 4.15 | 東松山図書館より資料移管 | 6.24 | 徳丸研究棟大規模工事説明会 |
| 4.25 | 全国大学史資料協議会幹事会（於：専修大学） | 6.27 | 岡田脩氏（本学名誉教授）より資料受贈
デジタル化写真データ資料返却 |
| 5.13 | 展示入れ替え作業 | 7.4 | 全国大学史資料協議会東日本部会幹事会（於：立教大学） |
| 5.14 | 第25回企画展「平沼騏一郎と土屋久泰 大東文化を創った二人のリーダー」公開
WG会議 | 7.8 | 岡崎邦彦氏（東洋研究所教授）より資料受贈 |
| 5.16 | 総務課所蔵資料（理事会・評議会議事録修復分）移管 | 7.9 | 水島大二氏（同窓生）より資料受贈 |
| 5.25 | 全国地方教育史学会年次大会開催協力
（於：大東文化大学） | 7.25 | WG会議
第三回百年史研究会開催（於：大東文化会館） |
| 5.30 | 全国大学史資料協議会東日本部会総会参加
（於：東京経済大学） | 9.3 | 同窓生に関する問い合わせ対応 |
| 5.31 | ニューズレター「大東文化歴史資料館だより」Vol.26発行 | 9.5 | 伊東和義氏（同窓生）より資料受贈 |
| | | 9.19 | 同窓生に関する問い合わせ対応 |
| | | 9.26 | 全国大学史資料協議会幹事会（於：立教大学） |

大東文化歴史資料館だより

第27号

DAITO ARCHIVES NEWSLETTER Vol.27

発行：2019年11月30日

編集発行：大東文化歴史資料館

〒175-0083 東京都板橋区徳丸 2-19-10

大東文化大学徳丸研究棟

TEL 03 (5399) 7646 / FAX 03 (5399) 7647

URL : <http://www.daito.ac.jp/information/about/archives/index.html>